



青少年赤十字だより

令和5年4月10日発行 第66号

編集：群馬県青少年赤十字指導者協議会広報部（日本赤十字社群馬県支部内）

〒371-0833 前橋市光が丘町32-10 TEL 027-254-3636 赤十字の活動を知りたい人は…日本赤十字社URL <http://www.jrc.or.jp>

「ピンチこそチャンス」

～トレセン開催！今こそ 気づき・考え・実行する～

想像しよう！高めよう！1人ひとりのリーダーシップ！ 青少年赤十字指導者協議会 指導部長 増田 眞次

『想像しよう！高めよう！1人ひとりのリーダーシップ』のスローガンのもと、令和4年8月23日、日本赤十字社群馬県支部において初の試みである「小学校・中学校合同リーダーシップ・トレーニング・センター」をオンライン開催しました。この試みはコロナ禍だからこそ生まれた新たな挑戦です。「変化に翻弄されるのではなく 変化を創り出す人間になる 不可能だと思うか 一歩を踏み出すか 次の世界へ」というテレビCMのフレーズが私の脳裏をよぎりました。宿泊を伴うトレセンは実施できませんでしたが、異校種によるこの試みは、児童・生徒のしなやかな感性をお互いに響き合わせる場を創り出し、新たな可能性を感じさせる挑戦となりました。「ピンチこそチャンス」。新たなステージに向けてリーダーとは何かを問いかけるトレセンのアップデートはこれからも続きます。

トレセンに参加して

伊勢崎市立境小学校 6年 中澤ひより

私は、小中学生合同青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターに参加して、2つのことを学びました。

1つ目は、人それぞれ大切なものはちがうということです。グループで意見を交わしたときに私とは反対の考えの人がいました。でも、人それぞれ大切なものがちがうのはあたりまえだと思うので、あいての気持ちにもなってみるのが大切だと思いました。

2つ目は、自分のできごとでいいから実行することが大切だということです。東日本大しん災を経験した方が、特別なことじゃなくても応えんしてくれるだけでもはげましになったとお話していたので自分ができることだけでもまずは、実行することが大切だと学びました。

私はこれからあいての意見を否定せずに、あいての立場になってみたり、災害がもしあったら、自分のできごとをやってみようと思いました。

トレセンに参加して

太田市立毛里田中学校 2年 久保田 珠

私はリーダーシップ・トレーニング・センターに参加して、災害から身を守るためにリーダーとして必要なことを考えました。今まで災害と聞くと、「自分の命を守る」ことだけを意識していましたが、リーダーとしての行動も大切だと思いました。冷静さ、周りを見る力、判断力など、リーダーとして必要なことはたくさんありました。他の小学校や中学校との意見交換で、新たな意見に気づいたり、話し合ったりでき、考えが深まって面白かったです。正直私は、災害がとてこわく、災害時に冷静でいる自信がありません。ですが、今回学んだことは、災害時だけでなく、普段から必要なことだと思います。だから、普段の生活から、周りを見る冷静さを身につけて災害が起きたときにも生かせるようにしていきたいです。



工夫次第で活動の幅は広がられる！

青少年赤十字高校生協議会 指導者代表 村山 貴子

7月29日（金）群馬県生涯学習センターにて、3年ぶりに対面でリーダーシップ・トレーニング・センターが開かれました。青年赤十字奉仕団の方によるアイスブレイクでメンバー同士の交流を深めたり、こども食堂ネットワークぐんま代表、丸茂ひろみ先生による「子ども食堂の現状と課題について」の講演を聞きグループ内で意見交換を行ったりしました。こども食堂の目的は、食事の提供や子どもの居場所作りなど様々ですが、大半のメンバーは改めてその活動の重要性に気づいたようです。「実践活動計画」作成については、今回は対面とインターネットを使用するというハイブリッド形式で行いました。講義と演習は対面時に行い、計画書作成は参加メンバーが各自で夏休み中に仕上げ、インターネット経由で提出し、指導者はそれにコメント等を付け返却するという形式でした。制限はあっても、工夫次第で活動の幅は広がれると指導者自身も実感した1日でした。

リーダー活動体験から学んだこと

群馬県立高崎商業高等学校 2年 藍原 里紗

7月29日の赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターに参加して思ったことが2つあります。ひとつは他校の生徒さんとの交流です。思っていた以上に活発なコミュニケーション活動で、初対面にもかかわらず、フレンドリーな親睦を深められたことです。自分の考えを持って、相手の話を聞く姿勢の重要性を痛感しました。互いに気遣いあって、グループ活動する方法を学びました。

次に青少年赤十字社の活動の歴史と役割、位置づけを知り、規模の大きさを実感しました。また、子ども食堂などの活動のお話を聞かせてもらい、とても重要な存在であることを認識しました。この研修から今自分ができる事は何かを探し、今後のJRC部の活動に取り入れたいと考えています。そして、学校の衛生活動や地域貢献活動を今後も継続させて学校を守る担い手として活動していきたいと思っています。これからの活動に、思いやり・協力の精神・気づきのJRC活動の花を今後も咲かせていきたいと考えています。



トレセンに参加して

東京農業大学第二高等学校 2年 鈴木 美夢

7月29日に「青少年赤十字高校生リーダーシップ・トレーニング・センター」が3年ぶりに対面で行われました。群馬県内の高校生と半日の研修を通じてよく学び、よく考える濃い時間だったと感じました。

内容としては子ども食堂の現状についての講義やアイスブレイク、今後の青年赤十字としての活動の仕方などを仲間と交流しながら学びました。私たちは今回学んだことを学ぶだけで終わらせないために、学校でのフードドライブ活動を実施しました。コロナ禍ということもあり、延期を繰り返しながらの実施となりましたが本校生徒、保護者の方々、先生方のおかげで食品を集めることができ、フードバンクへ届けることができ良かったです。

リーダーシップ・トレーニング・センターでは幅広い様々なことを学ぶことができました。その学びをこれからも社会のために活かしていきたいと思っています。

小学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

山王小のJRC活動

【前橋市立山王小学校】.....

本校では、JRC委員会を中心に「気づき、考え、実行する」という態度目標達成を目指して活動しています。あいさつ運動、プルタブ回収、赤い羽根募金活動、書き損じはがき回収等の活動に加えて、今年度は「海外援助募金活動」に取り組みました。また、8月に行われた県青少年赤十字小・中合同トレーニングセンターに委員会の代表がZOOMで参加し、県内の小中学生と交流することで、たくさんの方を学ぶことができました。今後も全校児童に呼びかけながら、自分たちでできることを行い、活動の輪を広げていきたいと思ひます。



「笑顔あふれる菱小学校」を目指して

【桐生市立菱小学校】.....

本校では児童運営委員が中心となり、特色あるJRC活動に取り組んでいます。今年度の運営委員は、自分たちで笑顔のあふれる菱小にしようと、いくつかの企画を考えてくれました。そのひとつがクリスマスの仮装をした運営委員が校舎内をめぐり、「メリー」「クリスマス」とあいさつする「クリスマスあいさつ運動」です。この楽しい取組をきっかけに、下級生から上級生まで、笑顔であいさつをする児童の姿がさらに増え、全校児童の思いやりの心を育てるきっかけになりました。今後も、自分たち自身で「気づき、考え、実行する」ことから、「明日も来なくなる笑顔あふれる菱小学校」を目指していきます。



全校で取り組む活動

【館林市立第八小学校】.....

本校では、『笑顔・前向き・感謝・尊重』を学校スローガンとして、全児童が青少年赤十字の一員としての活動を目指し、放送による登録式を行いました。青少年赤十字委員会の主な活動は、ベルマーク回収と集計です。各クラスにベルマーク箱を設置し、全校が協力できるようになっています。委員会の時間には、黙々と集計活動に取り組み、集まった点数で新しい鉛筆削りと交換することができました。その他にも、募金活動、落ち葉清掃、書き損じハガキの回収を行っています。



美九里東小学校のJRC活動

【藤岡市立美九里東小学校】.....

本校ではJRC活動として、縦割り班活動、あいさつ運動、募金活動、ペットボトルキャップ回収等に取り組んでいます。縦割り班活動では、6年生が低学年の子も楽しく活動できる遊びを考え実行しています。あいさつ運動にも全校児童で取り組みました。募金活動やペットボトルキャップ等の回収は、児童会本部が呼びかけ方を工夫した結果、例年になく全校児童が積極的に活動に参加することができました。今後も、「気づき・考え・実行する」ことを活動の基本として、継続してこれらの活動を行っていきたくて考えています。



あいさつで心の交流 月北小あいさつ運動

【みなかみ町立月夜野北小学校】.....

自分から元気にあいさつができる児童をめざして、月北小では「あいさつ運動」を行っています。学級ごとに担当する月の1週間、形態や内容を工夫して、元気な声であいさつしながら各教室や職員室を回りました。また、登下校時に職員室の前まで来て、笑顔で元気なあいさつをするのも月北小あいさつ運動の特色です。最初は恥ずかしがっていた1年生も2学期になると、大きな声であいさつができるようになりました。進んであいさつをすることを意識することや心の交流をめざして活動を行っています。



気づき、考え、実行する せらだの子

【太田市立世良田小学校】.....

本校では、JRC委員の児童を中心に、全校児童が青少年赤十字の活動に取り組んでいます。登録式の際には、JRCの成り立ちや、具体的にどんなことをしていけば良いのかについて、委員の児童が劇を交えながら全校に説明し、「気づき・考え・実行する」という目標を掲げています。また、毎週木曜日にリサイクルの日を設定し、アルミ缶やエコキャップ、テープの巻心の回収を行ったり、赤い羽根共同募金活動に参加したり、児童会の児童が中心となって毎月のあいさつ運動を行ったりしています。これらの活動を通し、自ら様々なことに「気づき」、どうすればよいのかを「考え」、それを積極的に「実行」に移すことのできるような児童の育成を目指しています。



中学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

SDGs実現に向けて

【高崎市立長野郷中学校】

本校では、各委員会がSDGsと関連づけて活動しています。その中で、JRC活動はボランティア委員会が担当し、赤い羽共同募金やペットボトルキャップ回収に取り組み、呼びかけや募金活動の回収方法等、全校生徒の自主的な参加を促しました。青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」は、各委員会活動のSDGs実現に向けた意義や行動計画との連携が図られ、次第に全校生徒に伝わり、よりよい未来を考えていける力が徐々に育ってきていると感じています。



花いっぱい運動

【太田市立毛里田中学校】

本校では、「あいさつ・緑化・清掃・合唱」を四本柱として力を入れて活動を行っています。その中の緑化活動では、学校花壇の花植えを全校生徒で行い、緑化委員会で世話をしています。今年度は、コロナ禍により実施することができませんでしたが、地域の方たちと一緒にパンジーの苗植えを行い、育った花を地区の文化祭で配布したり、卒業式のときに会場に飾ったりします。緑化活動を通して、緑化作業を学ぶだけでなく、助け合いの精神を学び、豊かな心が育っています。



野反湖にシラネアオイの大群落を

【中之条町立六合中学校】

本校では、野反湖畔の八間山の麓でシラネアオイの保護活動に取り組んでいます。以前は苗を植えていましたが、ここ数年は苗の育ちがよくないため、秋に草刈りを行っています。春には、古代紫の美しいシラネアオイが斜面に咲き誇る様子を見学に行きます。平成8年から活動を始め、これまでに約90,000本の苗を植えました。貴重な高山植物を保護する活動は、そこを訪れるたくさんの人々に感動を与えるとともに、生徒たちが郷土に誇りをもつことにつながっています。



「気づき、考え、実行する」～いじめ防止に向けて～

【前橋市立大胡中学校】

本校では毎年、生徒会本部役員が中心となって、生徒たちの力でいじめを防止するための取り組みを行っている。今年度は、テレビ放送によるいじめ防止朝礼を実施した。教室の様子を描いたイラストを見て、いじめが心配される場面を、仲間と相談しながら考え、気づき、自分たちの生活に置き換えて行動できるようにすることを目的とした取り組みである。こうした毎年の取り組みの積み重ねで、思いやりや優しさが大きく膨らんでいる。



すべての生命を大切に

【渋川市立伊香保中学校】

本校では、花をみんなで大切に育てようという目標を掲げ、「花いっぱい活動」を実施しており、保護者の方や地域の方にも参加していただいています。整美委員会を中心に各学級で水やり当番を決め、定期的に花壇の手入れを協力して行っています。このような活動を通して、主体的に活動に取り組む生徒が増え、生命尊重の心や豊かな心を育むことができています。今後も「すべての生命を大切に」という合い言葉を胸に、全校が一体となり、全員で活動を続けていきます。



身近な活動をこつこつと

【伊勢崎市立殖蓮中学校】

本校では、JRC委員会が中心となって活動に取り組んでいます。毎年、「赤い羽根共同募金」や「書き損じハガキの回収」等に取り組んでいます。また、身近なことの中でできることは何かと考え、毎月、「ペットボトルキャップの回収」を行い、年間で6万個ほど回収しています。これらの活動を通して、助け合いの精神や自分たちにできることをこつこつと続けていくことの大切さを学んでいます。



高等学校等 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

JRCの活動について

【群馬県立前橋商業高等学校】… 2年 大澤 友翔

本校のJRC部では、毎年7月に行われる学校行事「スポーツフェスティバル」で熱中症対策の一環として部員がドリンク販売をして、売上げを赤十字に募金するスポフェス募金を行っています。商業高校ならではの宣伝方法で、毎年多くの生徒や職員が購入し、募金に協力していただいています。このように、この行事では学校全体で赤十字活動や募金活動に参加できるという点において、とても大切な行事です。今後も、本校のJRC部のメイン活動の一つとして継続し、赤十字活動や社会に貢献できるように役立てたいと思います。



今できることを、ともにしよう

【群馬県立新田暁高等学校】…… 教諭 芹澤 浩美

本校でのJRC活動は、「インターアクトクラブ」が行っています。部員数13名の小さな部活動ですが、エコキャップの回収・募金活動・地域清掃・児童館との交流などのボランティア活動をしています。コロナ禍ではありますが、少しずつ地域との交流ができるようになり、生徒達も大変積極的に活動してくれています。今後も本校の校訓である「正しく・強く・和やかに」を念頭に置き、地域から信頼される学校づくりにボランティアを通して貢献していきたいと思っています。



新しい挑戦

【共愛学園高校】…………… 2年 卯野 苺香

私たち共愛学園高校では、あしなが学生募金をはじめとした募金活動や清掃活動を行っています。コロナ禍の今では、フードバンクまえばしへの食品寄付や、児童養護施設へ文房具や雑貨等をクリスマスにプレゼントするといった活動も始めました。学園全体に呼びかけをしたことで、全校生徒が協力してくれました。そこでは人と人との繋がりの大切さを感じ、沢山の優しさに触れることができました。また、今年は新たに、文化祭でオリジナルマグネットを作り販売、そしてその売上金を地行園に寄付をしました。なかなか直接交流ができない今、私たちにできることを考え、足を止めることなく活動を続けていこうと思います。



館林女子高校のJRC活動

【群馬県立館林女子高校】……………

ここ数年は、校内でできる事を部員と考え行っています。昨年度は元気な館女をイメージしてキャップアートを作成し、玄関に飾りました。今年度は地元企業を応援したいという思いから、カルピスボトルの回収を始めました。校内の感染症対策として、手指消毒液の補充や泡石けんボトルの準備、嘔吐物処理セット作成などもJRC部で行っています。募金活動なども積極的に実施しています。

日々の生活の中で、自分にできる活動を見つけ実践できる館女生である事が目標です。



地域と全校生徒での取り組み

【群馬県立藤岡工業高等学校】……………

本校ではJRC部として活動は行ってはませんが、生徒会を中心に全校生徒で地域と活動を行っています。

今年も藤工環境プロジェクトの中で、生徒会としては電気の地産地消を目指し、家庭などで使い終わった油を集めています。集めた油は、市内業者にお渡しし、発電機を動かすためのエネルギーとしてふたたび利用されます。校内では、ゴミの分別・リサイクルの活動を行っており、紙、かん・ビン、ペットボトルなどに分けてリサイクルするようにしています。



高崎女子高等学校JRC部の活動

【群馬県立高崎女子高等学校】……………

高崎女子高等学校のJRC部は、1年生3人、2年生17人、3年生2人の22名で明るく前向きに活動しています。高崎市内の学校と協力して、観音山の清掃や街頭募金を行ったり、防災学習、救急法学習を行ったりしています。また、本校独自の取り組みとして、ペットボトルキャップの回収や、募金を通して発展途上国の女性の教育の支援を行っています。今後も部員一同、世の中の情勢にアンテナを張り、高校生としてできることに積極的に取り組んでいきたいと思っています。



「高校生協議会等の活動について」

令和4年度高校生協議会総会

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 5年(2年) 小牧 威琉

令和4年度高校生協議会総会では、新型コロナウイルスの影響により、昨年度と同様にオンラインで5月14日(土)に開催されました。

前半は、青少年赤十字の活動報告と行事報告などを行いました。後半は、役員企画の「三角巾を使った救急法」「AEDの使い方」に関する実践を交えた〇×クイズを行いました。言葉だけではなく、実際に救急法や心肺蘇生法を体験することで、深く理解してもらうことができたと思います。また、オンラインの参加者に伝わりやすくしなければならぬという点が難しいと感じました。



高校生リーダーシップ・トレーニング・センターに参加して

高崎商科大学附属高等学校 2年 井上 綾乃

今年度のリーダーシップ・トレーニング・センターは、7月29日に県生涯学習センターにて開催されました。コロナも落ち着いてきたため、規模は小さくなりましたが対面での開催が叶いました。役員としてもとても喜ばしく、精一杯務めさせていただきました。ワークショップを考案するにおいて、「コロナ禍だからできなかった」ではなく「コロナ禍だからできること」を自分たちなりの視点で考え、実行することが大切ということを念頭に置き、ワークショップを考案しました。



栃木・群馬県支部国際交流事業に参加して

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 4年(1年) 山口 奈々

私たちは「国際理解・親善」について、学びました。海外からの移住者が多い栃木・群馬両県において、群馬県メンバーからはペルー、栃木県メンバーからはベトナムについて発表しました。実際にペルー、ベトナム国籍を持つ方に講演をしていただき、多文化共生における現状の問題点や改善点などを話していただきました。グループワークでは、「共生するために必要なこと」について話し合い、多文化共生を進めるため、積極的にコミュニケーションを取ることが大切だとわかりました。



JRC専門部に参加して

太田市立太田高等学校 2年 林かんせい

10月22日に群馬県高等学校文化祭青少年赤十字専門部大会が開催されました。新型コロナウイルスの影響により、人数を制限しての開催となりましたが、実際に一つの会場で参加できたことを嬉しく思います。

この専門部大会では、今年度に行われた「とうきょう総文2022」の参加者による活動報告と赤十字救急法講習の体験を行いました。特に、赤十字救急法講習では、三角巾を使った怪我の応急手当を学びました。この応急手当を学べたことで、周囲の誰かが怪我したときに慌てず対応できるようになったと思います。

今回の専門部大会で学んだことをこれからの赤十字の活動にも活かしていきたいと思えます。



JRC100周年大会 in Gunmaに参加して

群馬県立伊勢崎工業高等学校 1年 川原田修治

高校生協議会の役員が献血や赤十字と青少年赤十字について〇×クイズと解説、戦場カメラマンの渡部陽一様が講演を実施しました。

高校生協議会の〇×クイズ・解説では、献血についてわかりやすくまとめて発表しており、献血者が増えることを期待します。

渡部陽一様の講演では紛争に巻き込まれた子供たちやウクライナ戦争の悲惨な写真を見て、戦争は絶対にしてはならない、戦争後も化学薬品の影響で病気を患う方々がいることを知りました。対岸の火事ではなく当事者意識を持ってこれからも考えていきたいです。



ワークショップ発表会

前橋育英高等学校 2年 芦澤美智子

令和4年度に行われた高校生ワークショップ発表会では、活動の進捗状況またはこれからやりたい事をスライドで各学校ごとに発表し、「計画」「実践」「反省」を考えました。また、「栃木・群馬県支部合同国際交流事業」の報告、「未来のあなたへ、やさしさを」を題材とした世界や環境についてグループワークで話し合いました。

私は実際に活動をし、スライドにまとめ発表しました。その際に部員と切磋琢磨しより親交が深まりました。また、他校の活動内容を聞き、たくさんの知識を習得することができました。私は、他者と様々な議題に対して意見交換することにより、視野が広がり、青少年赤十字活動をより活性化することができるのではないかと考えました。ワークショップ発表会で得られた知識をもとに、日々活動に専念してまいります。



日本赤十字社群馬県支部では、メンバーの夏休みを利用して、赤十字や青少年赤十字に関する作文やポスターの作品募集を行っています。これは、各メンバーが青少年赤十字に関心を持ち、活動に対する意欲を高めることを目的として実施しています。令和4年度は青少年赤十字100周年記念のコンクールでした。なお、入賞者には賞状と副賞を、応募者全員に参加賞を差し上げています。毎年実施していますので、ぜひ皆さん応募してください。

青少年赤十字「作文」コンクール入賞者

小学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	明和町立明和東小学校	天海 美祐	6	髪がつかぬ思いやり
人道賞	館林市立第二小学校	須藤 向陽	4	未来の弟に、やさしさを
	前橋市立桂置東小学校	角田紗優花	3	わたしの思いやりの心
	太田市立北の杜学園	椎名依緒梨	5	お母さんとの約束
JRC賞	邑楽町立長柄小学校	藤江 和恋	4	ヘッドネーション
	邑楽町立長柄小学校	金久保愛実	3	自分は しあわせ

中学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	館林市立第四中学校	関根 悠人	1	自分自身の生活を振り返る
人道賞	館林市立第四中学校	多田 心絆	2	未来のあなたへ、やさしさを
	前橋市立芳賀中学校	櫻谷 章奏	1	我が家のコロナ日記
JRC賞	太田市立北の杜学園	太田 蓮	3(9)	誰かのために行動する事とは
	太田市立北の杜学園	堀江 杏音	3(9)	未来のあなたへ、やさしさを
	館林市立第四中学校	小林 希優	2	世界で一つの命

高校生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	群馬県立高崎北高等学校	常盤まつり	1	未来のあなたへやさしさを
人道賞	群馬県立中央中等教育学校	飯田 京菜	1(4)	小さな貢献から将来へ
	東京農業大学第二高等学校	桑子 美咲	1	私のこれから
JRC賞	群馬県立桐生高等学校	赤川 季穂	2	多くの人に救いの手を
	群馬県立桐生高等学校	為谷 夏光	1	悪ふざけといじめの境界線
	群馬県立桐生高等学校	田波 結那	1	よりよい未来へ

100周年特別賞

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
100周年特別賞	東京農業大学第二高等学校	鈴木 美夢	2	未来のあなたへやさしさを

学校奨励賞 受賞校

(※学校奨励賞は応募総数、応募率等に基づいて決定しております。)

- 小学校…高崎市立久留馬小学校、伊勢崎市立北二小学校、太田市立毛里田小学校、館林市立第二小学校、みどり市立笠懸小学校、明和町立明和東小学校
- 中学校…太田市立北の杜学園、館林市立第四中学校、みどり市立大間々東中学校、玉村町立南中学校
- 高等学校…群馬県立高崎東高等学校、群馬県立桐生高等学校、群馬県立伊勢崎工業高等学校、東京農業大学第二高等学校

青少年赤十字「ポスター」コンクール入賞者



アンリー・デュナン賞 (最優秀賞)



太田市立宝泉小学校
6年生 石川 莉子



玉村町立南中学校
2年生 井田 卓希



群馬県立高崎北高等学校
2年生 大谷 良空



人道賞 (優秀賞)



明和町立明和東小学校
6年生 天海 美祐



前橋市立大胡小学校
6年生 星野 郁美



前橋市立みずき中学校
3年生 佐藤 柚葉



伊勢崎市立第一中学校
2年生 藤井緋陽剛



群馬県立高崎北高等学校
1年生 関根 優那



東京農業大学第二高等学校
1年生 町田佳奈美



JRC賞 (佳作)



館林市立第一小学校
2年生 河本 英晃



伊勢崎市立北小学校
6年生 橋本 峻



前橋市立第七中学校
1年生 藤掛みなみ



伊勢崎市立境西中学校
1年生 横澤 賢



玉村町立南中学校
2年生 原 夏希



群馬県立高崎北高等学校
1年生 岸 幸暖



明和町立明和西小学校
6年生 柿沼 葵



前橋市立第七中学校
2年生 笹岡 莉枝



玉村町立南中学校
2年生 猪野くるみ

100周年特別賞



館林市立第二小学校
5年生 武藤 吳希